

求道

私どもは自分の立場がはつきりし、生きていることに価値を感じるようになった時、正しいものの見方を教えられた時、限りなき広い世界が見えてきます。その時、私どもは心のよろこびを感じます。と同時に、私はまたいよいよ光の国への出発点に立っているにすぎないことを思います。それはある種の悲しみです。おそらく私どもは一生涯かかっても親鸞聖人の人格や孔子の人格には及びもつきませぬ。いいえ、年々に私というものがわかればわかるだけ、そうした方がわかればわかるだけ、その間の間隔は遠くなってゆきます。しかし、それは決して悪い事をした後にばれてしまった時のような悲しみではありません。よろこびがあります。聖い世界に住んでいた方を知れば知るだけ、間隔の遠ざかってゆくにかかわらず、よろこびを感じます。悲哀を感じつつよろこびを感じます。それは精進した人だけにわかります。

私はまず、物質や地位や人と人とのいきさつは今のままでいいから、現状のただ中に、今日すぐ求道の旅に出発して下さいとすすめます。求道の旅と言っても家を出よというのではありません。

まず、心を靈界に移すのです。そうして今までほっておいた世界に出発するので

す。一粒の櫛の実、それを箱の中に入れておいては万年たっても芽をきりません。土の中に埋めてやると、小さい芽をきります。

芽をきれ！ 芽をきれ！

そうしてのびよ！

天までのびよ！

青い空にははてしがない。

おん身の心の芽！

あんまり冬が長すぎる、

光の空へ芽を出せ。

しかし一粒の大豆が芽を出すにも、必ずそこには暖かさと水が必要です。あんまり長い間冷たい世界にさすらっている者は、必ず温かい人情の中で温められねばなりません。あなたにはそれが無いと言うのでしょうか。しかしそれはあなたの考え違いです。いたる所に温かい胸が待っています。不思議な催しが、求める者にだけそれを与えます。得た者にだけその秘密がうなずけます。それは一つには宿善、二つには善知識、三つには光明、……と今しばらく謎のままに残します。